

## 博士後期課程の新しい教育課程について

令和6年度より博士後期課程のカリキュラムが新しくなります。令和4年度より博士前期課程のカリキュラムを変更し、教学マネジメントの観点から研究科の教育方針なども改めて見直すこととなり、その結果博士前期課程からの継続的な観点から令和6年度より博士後期課程についても科目群などを見直し、これによってディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーなども変更となり、実質的に編成する科目なども博士前期課程との継続性を重視した上で、さらに研究を深めてもらうものと致しました。

### 令和6年度入学生よりの新しい3つのポリシーと教育課程（予定）

#### ディプロマ・ポリシー

##### （1）国際コミュニケーションの知識・理解

国際コミュニケーションの基盤となる言語及びコミュニケーションに関する理解を深める一方、歴史的背景を踏まえると共に時代の流れを意識しながら良好な国際関係を築けるよう確かな見識を身に付けた人材。

##### （2）国際コミュニケーションの背景の文化・社会の理解

カリキュラムの多面的履修や各自の研究を通して、日本文化・社会、国際文化・社会に関する深い理解と高い見識を備え、研究者として問題を解決に導く能力を身に付けた人材。

##### （3）研究者としての態度・志向性

建学の精神「他者理解」に基づき、研究倫理を遵守し、研究者として研究計画・研究発表・研究報告・論文執筆に真摯に取り組む姿勢やプレゼンテーション能力など研究者としての汎用的な能力を身に付けた人材。

##### （4）総合的な研究経験を通しての創造性と独自性

研究指導等を通して身に付けた専門的な知識を基に、国際コミュニケーションの視点からの研究をまとめた博士論文が、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを統合し、これまでの先行研究を踏まえ、十分な実証が行われ、確かな見識を身に付けた人材。

#### カリキュラム・ポリシー

##### （1）実践的で高度なコミュニケーションの研究に重点を置き、国際コミュニケーションに深い理解を目指す人材を養成するため、言語・コミュニケーション研究科目、日本文化・社会

研究科目、国際文化・社会研究科目を配置する。

##### （2）言語・コミュニケーション研究科目では、言語やコミュニケーションから派生する文化的な影響の研究が深められる科目を配置する。

##### （3）日本文化・社会研究科目では、日本文化・社会を中心に日本文化・社会の独自性や日本文化・社会と異文化社会との異同を究明する科目を配置する。

##### （4）国際文化・社会研究科目では、国際文化・社会を中心にグローバルな視点からの研究が深

められ、国際社会から見た日本の位置を究明する科目を配置する。

- (5) 勤労観、職業観、研究者としての姿勢を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人・研究者として自立していくことができるようにするものとして、院生が最終的に研究として博士論文として結実できるよう、研究指導教員により細やかな研究を行う。

## アドミッション・ポリシー

### ○教育目的

国際感覚を持ち、国際的舞台や大学、研究機関等で研究者として活躍しうる知識、言動、行動に加え、異文化理解に関するコミュニケーション能力を有し、知識基盤社会をリードする高度な学識を備えた人材育成を目的とする。

国際コミュニケーションを実現する為に、高度なコミュニケーション・スキルや理論を修得した上で、国際的な視点から日本文化・社会を捉え、国際文化・社会の深い理解力を身につけた、高度な学識を備え、学際的な教育・研究を行うことを教育研究の目的とする。(本大学院学則第五条より)

### ○求める人材像

知識基盤社会を支える高度な知的な素養を備えた人材養成への期待は、国際的なものとなっている。本専攻では国際感覚を持ち、国際的舞台や大学研究機関で研究者等として活躍しうる知識、行動力ならびに異文化理解に関するコミュニケーション能力を有し、もって知識基盤社会をリードする高度な学識を備えるという観点から教育・研究を行うことを理念とする。そこで、高度なコミュニケーション・スキルを背景にして、文化・社会を高度なレベルで理解、研究し、「他者理解」に基づく「共生的社会」を構築していこうとする問題意識を持ち多面的な異文化理解の交流や相互の発展を企図する。本専攻はこうした必要性に対応するものとして、「国際コミュニケーション」を掲げ、学際的な教育・研究を実施し、その教育・研究の専門家の養成を目的とする。(本大学院学則第五条より)

#### ・学内進学者選抜

本大学院、博士前期課程の国際コミュニケーション専攻において、教育・研究を十分理解し、明確な目的意識をもって大学院生活を送り、「国際コミュニケーション」に関する専門的知見を高めてきたかを評価する。知識基盤社会を支え、高度な職業的舞台で展開していくスキルと高度な学識を備えるという実践的観点から、研究に従事でき、博士論文をまとめることができる人材を求める試験。英語、日本語、中国語、資料読解うち 2 科目選択（語学試験は母語を除く）、小論文、面接、書類審査を課す。

#### ・一般選抜

本専攻の教育・研究目標を十分理解し、明確な目的をもって研究生生活を送ることができるかを評価する。加えて、その基盤となる力としての語学力を確認する。知識基盤社会を支え、高度な職業的舞台で展開していくスキルと高度な学識を備えるという実践的観点から、研究者として自立でき、博士論文をまとめることができる人材を求める試験。英語、日本語、中国語、資料読解のうち 2 科目選択（語学試験は母語を除く）、小論文、面接、書類審査を課す。

・社会人選抜

社会人として培った経験、その経験から得たコミュニケーションの力や積極的に物事を理解しようとする意欲、明確な問題意識をもって研究生活を送ることができるかなどを評価する。知識基盤社会を支え、高度な職業的舞台で展開していくスキルと知識素養を備えるという実践的観点から、研究に従事でき、かつ、社会人としての経験を生かし、研究者として自立でき、博士論文をまとめることができる人材を求める試験。小論文、面接、書類審査を課す。

・外国人留学生選抜

異なる言語・教育・政治・文化のもとに育った日本語能力の高い外国人留学生を院生として入学させ、修了後は、国際化の進む我が国と出身国との前向きな交流に貢献でき、かつ我が大学の伝統を受け継げる人材を確保する。このため、高度な日本語能力を有し、本学の大学院教育・研究目標を認識し、将来の自分の専門に関して強い目的意識と研究意識を有し、日々の研究活動に耐え、研究者として自立でき、博士論文をまとめることができる人材を求める試験。小論文、面接、書類審査を課す。

教育課程

授業科目の概要		配当 年次	単位数又は時間数			授業 形態	備考
			必修	選択	自由		
言語・コミュニケーション研究科目	言語コミュニケーション特殊研究 1	1・2		2		演習	選択必修 2 単位
	言語コミュニケーション特殊研究 2	1・2		2		演習	
	コミュニケーション特殊研究 1	1・2		2		演習	
	コミュニケーション特殊研究 2	1・2		2		演習	
日本文化・社会研究科目	日本文化特殊研究 1	1・2		2		演習	選択必修 2 単位
	日本文化特殊研究 2	1・2		2		演習	
	日本社会特殊研究 1	1・2		2		演習	
	日本社会特殊研究 2	1・2		2		演習	
国際文化・社会研究科目	国際文化特殊研究 1	1・2		2		演習	選択必修 2 単位  上記各科目群 の選択必修単 位以外 2 単位 以上を履修 し、合計 8 単 位以上
	国際文化特殊研究 2	1・2		2		演習	
	国際社会特殊研究 1	1・2		2		演習	
	国際社会特殊研究 2	1・2		2		演習	
	(研究指導)	1~3	—	—	—		

## 履修方法（博士後期課程）

科目	必修	選択 必修	選択	修了要件単位
言語・コミュニケーション研究科目	0	2	2	選択とは、各科目群の選択必修単位以外2単位以上の意味
日本文化・社会研究科目	0	2		
国際文化・社会研究科目	0	2		
(研究指導)	—	—	—	
合計	0	6	2	8単位以上

修了要件：選択科目8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出し、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験（口頭試問）に合格しなければならない。